

第6号

令和5年

3月1日発行

古河市農業委員会だより

～農地と食を守る農業委員会～



けんせい酪農業協同組合代表理事組合長の増田茂さん(72歳・東山田)。消費が落ち込み飼料等が高騰する中、様々な工夫で酪農に取り組み、家族と協力して毎日約760kgの生乳を出荷しています。健康増進のため、カルシウム豊富な牛乳や乳製品を積極的に食事に取り入れてみませんか。

◆認定制度を知っていますか

認定農業者は、自らの創意と工夫により経営の改善を図るため、5年後に目指す農業経営像に対し計画書を作成します。認定新規就農者は、地域農業の担い手として活躍するため、農業経営開始から5年間の青年等就農計画を作成します。それぞれ市から認定を受けて、制度を活用しながら持続可能な営農に取り組んでいます。

江原誠さん(古河市認定農業者連絡協議会会長・江原ファーム(有)代表取締役)と岩瀬練さん(認定新規就農者・あぐり一揆会長)が今後求められる農業経営について語ってくれました。



▲江原 誠さん(左) 岩瀬 練さん
江原さんが経営するCafe Mather Earthの前で

◆対談 今後求められる農業経営とは

えはら まこと 江原 誠さん(54歳・下大野) × いわせ れん 岩瀬 練さん(26歳・磯部)



農業を始めたきっかけは

江原 岩瀬さんは就農して何年目ですか。

岩瀬 三年目になります。

江原 私は、祖父の代からの養鶏を受け継ぎ30年になります。毎朝5時に起き、約二千個の卵を収穫しています。岩瀬さんも親元からの就農ですか。

岩瀬 いえ、実家は農家ではなかったのですが、親戚の農家で後継者がいなくて困っていると聞き、就農することにしました。最初は、親戚で農業を一緒にやっていたのですが、現在は独立し、農地を借りてキャベツや大根などの露地野菜を中心に生産しています。



現状と今後の展望

岩瀬 今は一人で農業に従事しています。作付けを増やしていきたいと思っていますが、人を増やすのが先か、作物を増やすのが先か模索中です。

江原 機械の購入や人件費などの金銭面が、農業経営していく中で最も難しいところですね。

岩瀬 そうなんです。作物を作るより、販売することの方が難しいです。今は、道の駅や無人販売所その他にネット販売も行っています。消費者に直接関わることが魅力です。おいしいと言われると、モチベーションが上がります。

江原 農業は労働時間の割には収入が得られないことが、課題となっています。現在AIなどを活用したスマート農業が注目されています。若い人のセンスでどんどん農業のスタイルを進化させてほしいですね。

農業経営に求められること

岩瀬 これから農地を増やし、法人化していきたいと思っています。若い人からも農業が魅力ある仕事と思ってもらえるように、SNSなどを使って発信していきたいです。

江原 法人化は、税制や補助制度などのメリットが多くある一方で、社会保険料の事業主負担もあるため、仲間や先輩、専門家から色々な情報を集めることが大切です。新たな販売ルートの開拓など多面的に取り組んでみるのもいいと思います。

岩瀬 農業経営者として、マネジメントにも主眼を置き、農業に向き合っていきたいと思っています。



Cafe Mather Earthホームページ
<http://www.cafe-mother-earth.com>

岩瀬ちゃんYouTube

<http://www.youtube.com/channel/UCJyJfP-cIDH3ufvPmIroSA>



要望書を針谷市長に提出

令和5年1月19日、古河市農業委員会（高橋栄会長）は、農業委員会に関する法律38条第1項の規定に基づき、「農業生産資材等高騰への緊急対策を求める要望書」を市長に提出しました。

不安定な世界情勢や円安等により、農業生産関連資材等は大幅に値上がりし、市内農業は大きな打撃を受けています。食料の安定供給と持続的農畜産業の生産基盤の維持強化に向けた農業生産資材等高騰への緊急対策について、国・県と連携し、古河市独自の対策を講じていただくよう強く要望しました。



▲針谷市長に要望書を手渡す高橋会長と黒子会長職務代理者(左)、落合会長職務代理者(右)

古河市で視察研修 ～いばらき農業委員会女性協議会～

令和5年2月2日、有限会社森ファームサービス(上片田、代表取締役森雅美氏)で、いばらき農業委員会女性協議会による視察研修が行われました。

いばらき農業委員会女性協議会は、女性委員の持つ諸課題等の解決、農業振興・食農教育の推進など、女性ならではの活動を通じて茨城農業の発展に資することを目的に設立されています。

今回の研修会には、近藤かおる副市長と高橋会長を来賓に迎え、約60人の参加により実施されました。講演会では、森雅美氏による「農業経営の方程式」と題し、経営理念である「皆様のふるりに



▲森雅美氏による講演の様子(レストランゆるりの森にて)

なりたい！」について、新たな農業ビジネスモデルのデータを用いて説明がありました。農業は、人の命を育む生産産業であり、顧客満足度を高める信頼の構築が必要であるとの話に、参加者はうなづきながら聞き入っていました。

圃場視察では、昨年「茨城いちごグランプリ一般の部」で大賞を受賞した、いちごのハウスを見学し、施設栽培について理解を深めました。講演と現地視察による大変有意義な研修となりました。



▲いばらき農業委員会女性協議会の皆さん

農業者年金の魅力を新聞で広報

令和4年10月全国農業新聞「農業者年金特集」に落合美代子さん(高野)と家族の記事が掲載されました。

農業者年金加入推進部長として活動をしている美代子さんは、隆之さん(夫)、陽一さん、幸子さん(長男夫妻)と4人で農業経営をしています。以前、戸別訪問で制度の説明を受けたことがきっかけで年金に加入し、現在は長男夫婦も加入しています。受給者となった現在、年金の必要性を再認識し、若い農業者にも将来に備えた加入を勧めていきたいと笑顔で話してくれました。



▲茶畑の前で吉田浩樹さん(左)、弟の吉田優樹さん

新規就農者を紹介します

創業一八三九年。さしま茶産地で代々続く老舗茶農家「吉田茶園」の七代目、吉田浩樹さん(24歳、大堤は、就農して3年になります。お茶づくりの伝統を守りながらも、お茶の世界観や無限の可能性を広く伝えていくために活動をしています。農作業をはじめ、オンラインショップでの販売や日本茶カフェの経営などを行っています。他にも茶園ツアーの実施や地域のイベント出店など、活動は多岐にわたります。「もっと楽しい茶園を作っていきたい」と熱く語る瞳はキラキラと輝いていました。



▲落合美代子さん(右から3番目)と家族の皆さん

◆農地の賃借料情報◆

令和3年1月から12月に、利用権設定により締結された10アール当たりの賃借料をお知らせします。

賃借料決定の際の目安としてご利用ください。

	田	畑
古河市	11,200円	9,400円
三和地区	11,300円	10,400円
総和地区	11,400円	8,300円
古河地区	7,000円	5,800円

※現物玄米60キログラムは11,503円で換算。

編集後記

三寒四温の今日この頃、春が待ち遠しく感じます。

農業委員は、農地に関係する様々な案件を調査・審議する仕事です。私自身農業を営む者として改めて農地の大切さを知りました。今後も遊休農地の解消に尽力していきます。

農業委員会だよりを通じ、農業委員の活動や市内で農業を営む皆さんを知っていただければ幸いです。

取材にご協力いただいた皆さんに深く感謝いたします。

中村 守

広報委員

委員長 中村 守

副委員長 落合 美代子

委員 中村 輝男

委員 湯本 豊

委員 峯 静夫

委員 竹村 正義

顧問 高橋 栄